

令和7年度 SDGsインクルーシブ教育システム推進事業

# 第3回インクルーシブ教育推進フォーラム

すべての子供が共に学び、共に育つ学校、地域へ  
～共生社会の実現のために私たちができること～



## 【日 程】

13:00 13:30 13:40

15:10 15:20

16:00 16:10

|    |     |           |    |                  |     |
|----|-----|-----------|----|------------------|-----|
| 受付 | 開会式 | 講演<br>90分 | 休憩 | 意見交換・全体交流<br>40分 | 閉会式 |
|----|-----|-----------|----|------------------|-----|

11月25日（火）  
13:30～16:10  
富山県民共生センター  
サンフォルテ2Fホール

## 【講 演】

「私とボッチャの出会い  
～そして、これから～」

講師：元ボッチャ日本代表  
藤井 友里子 氏



## 【意見交換・全体交流】

「共生社会の実現のために  
私たちができること」

## フォーラム前後の ひととき



パラリンピックのメダルやボッチャで使うボールを見たり、触ったりしました。また、会場では、ボッチャのルールを動画で学んだり、ボッチャの体験をしたりしました。藤井さんも参加し、交流を深めました。



# 講演 「私とボッチャの出会い～そして、これから～」

元ボッチャ日本代表 藤井 友里子 氏

ご自身の人生を強い気持ちで歩んでこられたその足跡を聞かせていただき、自分の道を歩く、ターニングポイントで人と出会う、折々の分かれ道で決める、といった藤井さんその人の生きざまを見ることができました。「誰にとってもたった一度の人生」とおっしゃったことも深く心に残りました。

自分の好きなことを見つけ、そして、続ける努力をしていることの素晴らしさを感じた。日本の中だけでなく、世界を見てこられた経験も素敵だと思った。ボッチャに対する愛情やボッチャを広めていきたいという姿勢がとても素敵です。

藤井さんが、いくつもの困難に打ち勝って、そしてボッチャに会って、「幸せ」だと言っておられたことがとても心に残っています。今後、子供たちと関わって行く中で、子供たちが自分で考えて、答えを出しながら、社会で生きていく手助けができるようにあらためて考えていきたいと思いました。



幼少期からこれまでの人生について、藤井さんの気持ちも交えながらお話ししていただき、気づかされことがたくさんありました。特に、「子供たちがする前に先生が実際にやってほしい。そうすると、掛ける言葉も違ってくる。」「本人の気持ちを聞いて見守ってほしい。」と言われたことがとても印象的でした。本当の意味で、子供の立場になって考えることが大切だと感じました。

藤井さんの負けず嫌いで自分に正直なお人柄があふれた講演でした。一緒に追体験させていただいているような感覚になりました。

当事者の方の気持ち、本音を聞くことができてよかったです。藤井さんからのお言葉で、「本人の気持ちを聞いてほしい」、「見守ってほしい」、「子供たちのやることと一緒にやってほしい」、「選択肢をたくさん準備してほしい」という言葉が印象に残りました。

藤井さんが掛けられてきた言葉や視線から、色々なことを考えせられました。時代とともに、以前よりは障害や共生への理解は高まっていると感じたが、人と関わる仕事をする自分にできることはたくさんあるような気がしました。

藤井さんのお人柄あふれるお話に引き込まれました。藤井さんとはほぼ同年代、同じ時代に生きたからこそ、その時代の障害者に対する目や価値観を持ち前のポジティブさで乗り越えてきたことに、心搖さぶられました。

## 【意見交換・全体交流】 「共生社会の実現のために私たちができること」

教育・福祉・企業・スポーツ関係者、保護者、学生等、様々な立場の方で意見交換をしました。藤井さんもグループの中に入って参加しました。全体交流では、藤井さんから参加者の意見や質問に対してもお話をいただきました。



【意見交換】

短い時間でしたが、お一人おひとりの感想や、ご意見を聞けたのがとても楽しかったです。日々感じられていること、中には夢に繋がるお話も伺えて、とても明るい気持ちにもなれました。異業種交流や違う地域の方々との交流はとても刺激になりました。



【全体交流】

全体交流の中で、藤井さんが「見守ってほしい」「選択肢を増やしてほしい」と話されたのが印象的でした。子供たちは「できるようになりたい」という思いを常にもつていて、その子供に合った支援があれば、ハードルを乗り越えていく感覚をもてるのだとあらためて思いました。藤井さんは「障害者でよかった」「いろいろあったけど、幸せ者」と話されておられ、障害の有無に関係なくこのような生き方ができるのだと思い、感動しました。

藤井さんから「ボッチャをみんなでやりましょう」という声掛けがありました。同じことをみんなで一緒に体験してみることで、相手の立場にも立てるの、親も子供と一緒に体験することが大切だと思いました。

## インクルーシブ教育システムや共生社会の理念の実現のために

参加した皆様から、今回のフォーラムに参加して、「インクルーシブ教育システムや共生社会の理念の実現のために参考になったこと」を伺いました。一部を紹介します。

自分で楽しいと思ったことに自然とやりたいと思えたとおっしゃっていたことが印象的でした。選択肢を増やすとおっしゃっていたことにも通じますが、自分で決めるということを、あらためて大事にしたいし、そのためにどのような支援ができるかが課題だと思っています。楽しいと思える選択肢を増やすために、私自身も楽しんで創造していきたいです。

一人一人の興味や特性に合った「これぞ!」と思えるものとの出会いが人生の柱となったり、充実した時間になったり、という話に触れ、今担当している子供たちにそのようなものを見つける手助けをしたいと感じました。

共に生きるという観点には障害の有無は関係がないと気づきました。

小さな頃から、障害のある子もない子も一緒に同じ場にいたり、物を介して関わったりすることなど、互いを認め合うような環境づくりが大切だと思いました。小学校では、関わっていく中で、その子を理解した上で関わっていく子供たちがいると言っておられ、交流も大事な機会だとあらためて実感しました。

当事者の視点に立って見守ること、支援者の価値観の押し付けにならないようにすることを大切にしたいです。

藤井さんのお話の中に、選択肢をたくさんつくって自己決定する必要性や、心の支えとなる支援の必要性についての内容があり、今後生かしていきたいと思いました。

子供よりも大人側の意識の変化が必要であるとあらためて感じました。

インクルーシブ教育(可能な限り一緒に)と特別支援教育の推進(個々の能力に応じた学びの場の選択)、「一緒にする」と「分ける」の異なる概念の狭間の中で共生社会の在り方を日々探っています。今回、ヒントをたくさんいただきました。

フォーラムに参加した皆様、貴重な意見をいただき、ありがとうございました。また、ホームページを見てくださっている皆様、ありがとうございます。富山県教育委員会は、これからも互いに認め合い支え合い誰もが活躍できる共生社会の実現を目指していきます。

